

平成 16 年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

2005. 3

小矢部市教育委員会

例 言

- 1 本書は、小矢部市教育委員会が、国庫補助事業として実施した市内遺跡発掘調査等事業の概報である。
- 2 調査は、小矢部市教育委員会が実施し、担当は次のとおりである。

調査事務	高木場万里（文化課主任）	中井 真夕（同主事）
現地調査	高木山遺跡	大野 淳也（文化課主事）
	稻葉山牧場B遺跡ほか	高木場万里
- 3 調査の参加者は次のとおりである。

現地測量・実測等	上田寿美子	田畠 郁子	石黒 淑元
整理作業等	赤野 和恵	西田 芳江	
- 4 現地調査及び土壤洗浄の作業員は、(社)小矢部市シルバー人材センターから派遣を受けた。
- 5 遺物写真の撮影は、アガス・フォト・スタジオに委託した。
- 6 本書の編集は高木場が担当した。執筆は高木山遺跡を大野が、その他は高木場が担当した。
- 7 出土遺物及び記録資料は、小矢部市教育委員会が一括して保管している。

目 次

例言・目次

事業の概要	1
市内遺跡発掘調査等事業一覧	2
市内遺跡発掘調査等事業位置図	3
高木山遺跡	4
稻葉山牧場B遺跡	6
桜町遺跡（1）	8
埴生南遺跡	10
戸久遺跡	18
桜町遺跡（2）	20
日の宮・道林寺遺跡	22
報告書抄録	

事 業 の 概 要

2004(H16)年度に小矢部市内において実施した埋蔵文化財の発掘調査は7件である。このほかに立会調査2件、現地確認2件があった。試掘調査のうち1件は、試掘調査の結果から原因者負担により本調査を実施した。さらに開発行為の事前協議、民間・個人による小規模開発、農地転用・農業振興地域除外申請にともなう問い合わせ等が数件ある。

調査を開発行為の原因別にみると、個人の住宅建設に伴うもの、共同住宅建設に伴うもの、店舗駐車場造成に伴うもの、宅地造成に伴うもの、公民館建設に伴うもの、風力発電設備建設に伴うもの、老人ホーム増築に伴うものなどさまざまである。また、原因となった事業者別に見た場合、個人2件、民間3件、法人等団体2件である。

近年の傾向としては、大規模開発、公共事業などに伴う調査は減ってきており、個人・民間による小規模な開発に伴う調査が増加している。また、調査の原因も多岐にわたっている。

調査は、市内遺跡発掘調査等事業として国庫補助をうけて実施した。試掘調査の結果から、本調査を実施した特別養護老人ホーム増築に伴う高木山遺跡の本調査については、調査費を原因者負担としたため、事業の対象から除外している。本書では、試掘調査の対象とした7件について、その概要を記した。その他の立会調査、現地確認については以下に簡単に記す。

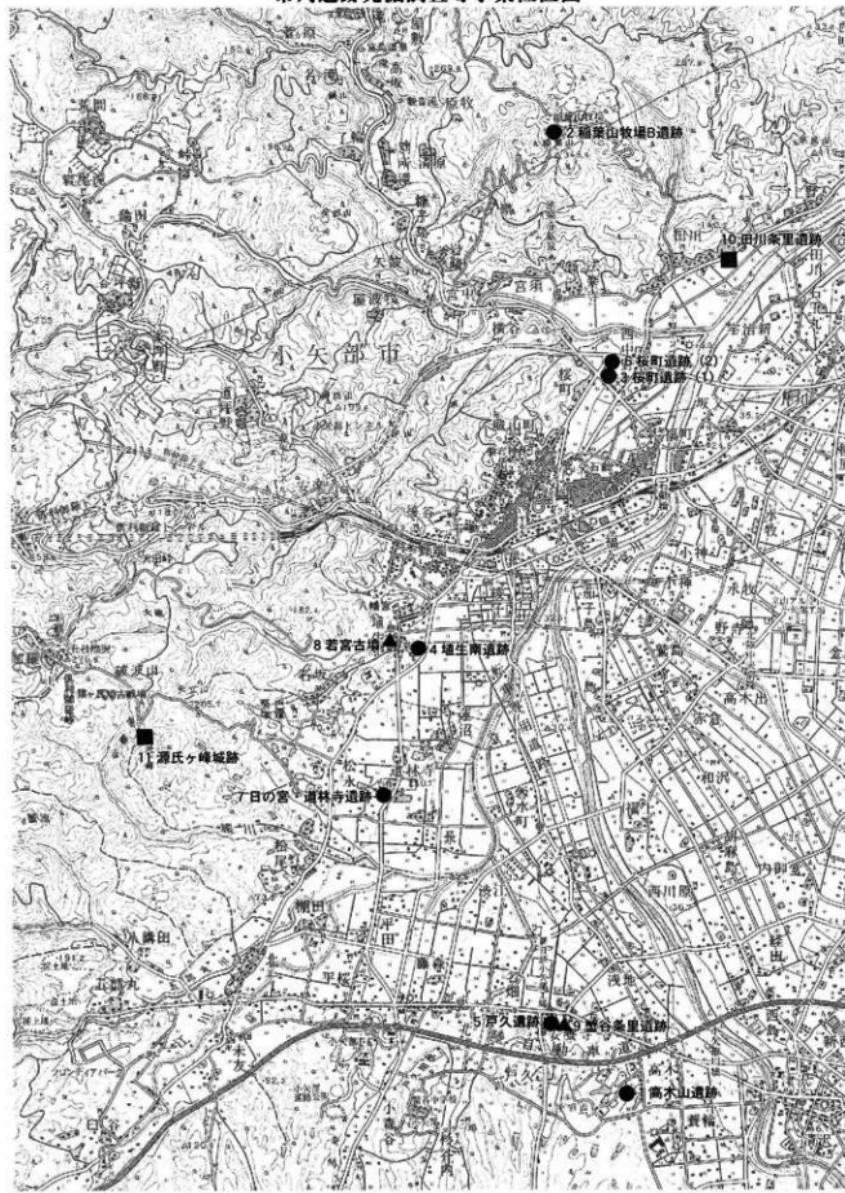
立会調査は、若宮古墳前方部の櫛にかかっていた墓地の移転に伴うものである。墳丘盛土を確認したが、遺物の出土はなかった。もう一件は、蟹谷条里遺跡内における藏波川の河川改良事業に伴うものである。河川改良という開発の性格上調査が困難な部分もあり、また、周辺の調査の結果から、圃場整備により削平されている可能性が高く、立会調査とした。工事は2010(H22)年度までの予定であるが、現在のところ遺構・遺物の確認はない。

現地確認したものは、田川条里遺跡内における車庫の建設に伴うものが1件。2000(H12)年度から行なわれている富山県中世城館遺跡総合調査に伴う、源氏ヶ峰城跡の現地確認が1件である。田川条里遺跡は、開発面積が小さく、また、すでに圃場整備が実施されているうえに、さらに盛土造成されているため、遺跡に影響ないと判断し、現地確認にとどめ、慎重工事とした。源氏ヶ峰城跡は、網張り図の作成に伴う現地確認で、草刈及び枝打などを実施した。

市内遺跡発掘調査等事業一覧

No	遺跡名	所在地	調査対象面積 (掘削面積)	調査種別	現地調査等 期間	調査結果	調査原因
1	高木山遺跡	浅地淨寺 116-1 ほか	3,000 m ² (101 m ²)	試掘調査	16. 4.26 ~ 4. 30	溝、穴確認。 縄文土器、磨製石斧、石 器出土。 引き続き、一部本調査。	特別養護老人ホ ーム増築
2	稻葉山牧場B 遺跡	田川字稻葉山 162-4 ほか	341.94 m ² (30 m ²)	試掘調査	16. 5. 7 ~ 5. 12	遺構確認されず。 遺物出土せず。	風力発電設備建設
3	桜町遺跡(1)	桜町字産出 1312-2 ほか	693 m ² (76 m ²)	試掘調査	16. 6. 7 ~ 6. 10	遺構確認されず。 遺物出土せず。	宅地造成
4	埴生尚遺跡	埴生 280-1 ほか	1,433 m ² (288 m ²)	試掘調査	16. 9. 3 ~ 10. 7	溝、土坑、穴確認。 弥生土器、土玉、土製品、 磨製石斧、石錐出土。	アパート建設
5	戸久遺跡	安養寺 1747-1	400 m ² (32 m ²)	試掘調査	16.10.19 ~ 10.26	遺構確認されず。 遺物出土せず。	個人住宅建設
6	桜町遺跡(2)	桜町字産田 1401 ほか	1,669 m ² (80 m ²)	試掘調査	16.11. 9 ~ 12. 6	穴確認。 土師器出土。	店舗駐車場造成
7	日の宮・道林 寺遺跡	道林寺 139	630 m ² (4 m ²)	試掘調査	16.12. 6	遺構確認されず。 遺物出土せず。	自治公民館建設
8	若宮古墳	埴生字七野	5 m ²	立会調査	16. 7. 8	墳丘。 遺物出土せず。	墓地移転
9	蟹谷条里遺跡	安養寺 2037 ほか	7,600 m ²	立会調査	随時	遺構確認されず。 遺物出土せず。	河川改修
10	田川条里遺跡	田川 7080-2	120 m ²	現地確認	16. 6. 9	遺構確認されず。 遺物出土せず。	車庫建設
11	源氏ヶ峰城跡	道林寺宇 源氏ヶ峰ほか	9,000 m ²	現地確認	16. 6.28 ~ 11.18	郭、土塁、堀切、堅壁、 虎口、土機、櫓台。	中世城館遺跡総 合調査

市内遺跡発掘調査等事業位置図



(1:50,000)

高木山遺跡

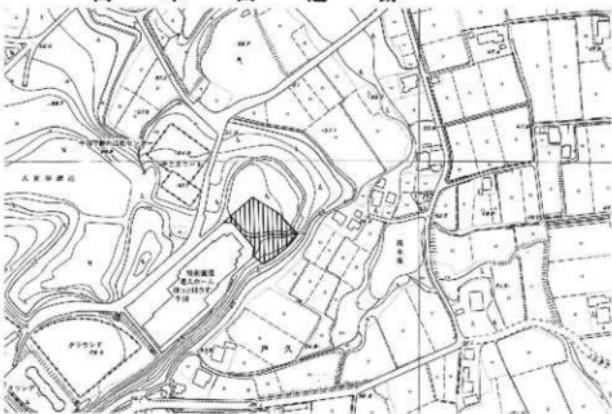


図1 調査位置図

(1:5,000)

調査の概要

高木山遺跡では、平成7・8年度に特別養護老人ホーム「ほっとはうす千羽」の建設に先立つ発掘調査を行い、縄文時代中期の遺構・遺物を検出している。今回、遺跡範囲に含まれる同施設隣接地においてその増築が計画されたため、事業化に先立ちその予定地内の埋蔵文化財の遺存状況を調査した。

調査は増築予定地3,000 m²を対象に、幅1mのトレーニング5本を重機により掘削、人力により精査した。掘削面積は合計101 m²である。

調査地は南北に高い部分があり、中央部が東へ向けて開口する浅い谷状の地形となっている。調査の結果でも、その地形が縄文時代から続く旧地形であることが確認された。基本土層はI層；暗黒褐色土(表土)、II層；黒褐色土(遺物包含層)、III層；暗褐色粘質土(谷部埋土)、IV層；黄褐色粘質土(地山)である。

遺構・遺物

遺構は、T1で幅40cm程の溝の一部を1条、T3とT5で径25~30cmの穴をそれぞれ1基と2基検出した。またその他に、T2で炭化物や焼土の分布を3ヶ所、T5で風倒木痕とみられるドーナツ状の溝の一部を確認した。遺物は、T2で磨製石斧1点と縄文土器片を、T5で縄文土器片と石器を少量検出した。

まとめ

北側の高所や中央部の低地では若干の遺構や遺物が認められたが、その分布状況は希薄であった。ただし、谷状の地形を含むことからは縄文時代の捨て場等が存在する可能性が考えられる。南側の高所でもほぼ同様の状況であったが、今回の調査区内では最も高い場所であり、穴等も検出されたことから、他に住居跡等の遺構が周辺に分布している可能性がある。

以上の結果から、当初の建設計画予定地から南側の高所部を除外するよう要請し、再設定する計画地についても本調査を行うよう協議した。 (大野)

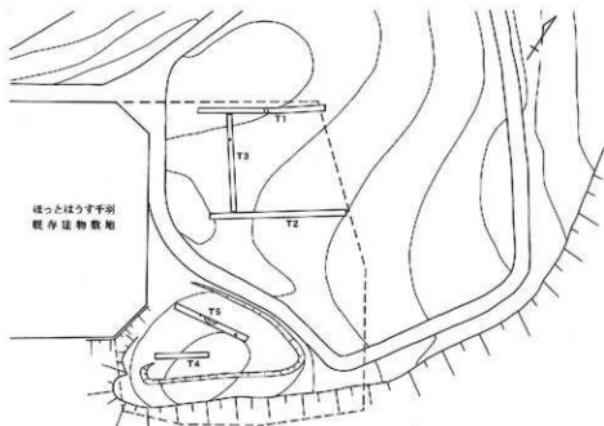


図2 検査区設定
位置図
(1:1,000)



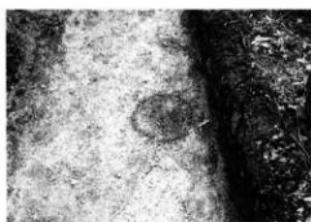
T 1 (南西から)



T 1 溝検出状況



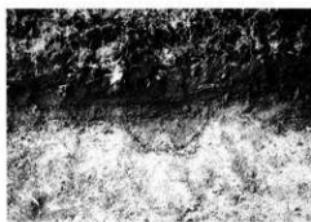
T 3 (北から)



T 3 穴検出状況



T 5 (西から)



T 5 穴検出状況

稻葉山牧場B遺跡

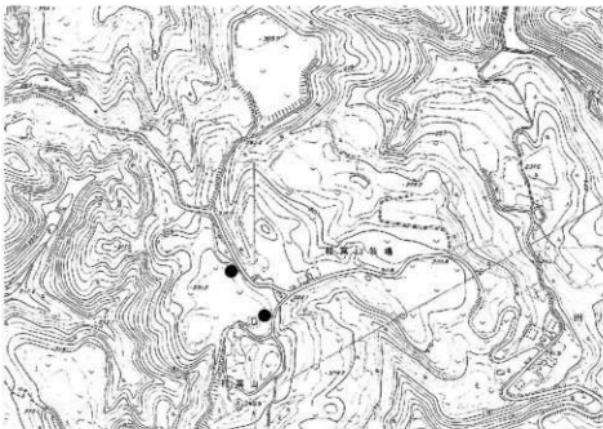


図3 調査位置

(1:5,000)

調査の概要

稻葉山牧場B遺跡は、小矢部市の北方、稻葉山の山頂北側、標高330m付近に位置する。1990(H2)年度の調査で、平安時代の遺構が確認されている。今回の調査は風力発電設備の建設に伴うもので、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲外であるが、90年度の調査区の近隣地であることから、試掘調査を実施した。

風力発電設備は3ヶ所計画されている。このうち3号機は遺跡の範囲から遠く離れているため、先に1号機、2号機の調査をし、その結果により3号機の調査を検討することとした。

現地調査は2004(H16)年5月7日から12日まで実施した。1号機、2号機の建設予定地内にそれぞれ1.5m×10mのトレンチを1本づつ設置し、人力により



図4 トレンチ位置 (1:1,000)

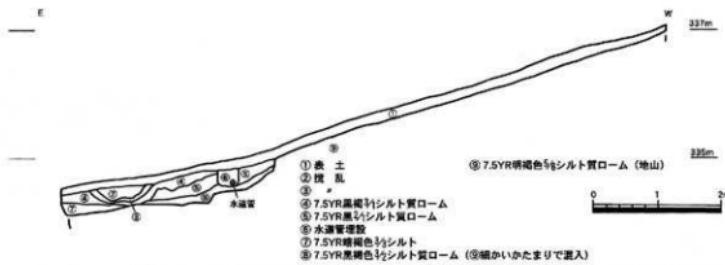


図5 T1断面 剖削した。最終的な剖削深度は、1号機予定地で20 cm～60 cm、2号機予定地で30 cm～50 cmである。
(1:80)

1号機予定地は、東西に設置したトレンチの西と東で標高差2.6 mをはかる傾斜地で、一帯は桜の植樹がなされている。20 cm～30 cmの厚さで堆積する表土下は、すぐ明褐色シルトの地山層が確認できる。トレンチ中央から東側にかけて70 cmの段差が確認されたが、これは比較的新しい時期に人工的に削削されたものと考えられる。

2号機予定地は、牧草地帯で、牧草地として造成する際に削平されており、薄い表土(牧草)の下にはすぐ地山層が堆積する。

1号機、2号機予定地とともに、遺物・遺構は確認できなかった。(高木場)



1号機予定地



1号機予定地調査終了



2号機予定地



2号機予定地調査終了

桜町遺跡（1）



図6 調査位置
(1:5,000)

調査の概要

桜町遺跡は市街地の北にあり、子撫川右岸の標高25m前後の段丘上から丘陵裾部にかけて広がる。1980年(S 55)から、遺跡を東西に横切るように国道8号小矢部バイパス建設に伴う調査が実施され、縄文時代から江戸時代に至るまでの遺構、遺物が確認されている。なかでも遺跡の西端にある谷からは、縄文時代の建築部材などが集中して見つかっている。そのほかにも県道、住宅等の建設に伴うものなど、これまでに50件以上の調査が行われている。

今回の調査は、宅地造成に伴う試掘調査であり、調査地は遺跡中央に位置する。調査区に隣接する南側では、1993(H 5)年公民館建設に先立ち試掘調査が実施され、縄文土器、石斧などが出土している。

現地調査は2004(H16)年6月7日から10日まで実施した。調査対象地内に1.5 m×25mの試掘トレンチを東西方向に2本(T 1・T 2)設定した。掘削機

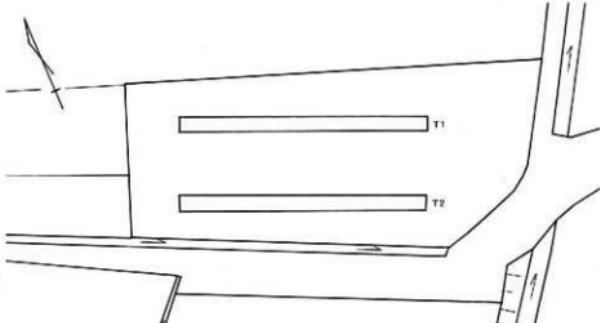


図7 トレンチ位置
(1:500)



図8 T2断面
(1:200)

により表土を除去した後、人力により精査を繰り返し、遺構及び遺物の有無を確認した。最終的な掘削深度は0.6mである。

T1では、表土を除去した段階で、トレーン中央を暗渠押水路が東西に通っていることを確認したので、これを避けるため、トレーンを南北に分割し、暗渠押水路がかからない北側のみの調査とした。遺構及び遺物ともに確認できなかった。

T2についても、表土を除去した段階で、まずトレーン北半分を調査し、その結果、遺構及び遺物ともに確認できなかつたので、北半分のみの調査で終了とした。

基本層位はT1・T2ともI表土(耕作土)、II暗オリーブ褐色シルト、III黒色ロームであるが、T2のトレーン西側では、II層にかわって、広い範囲に砂の堆積がみられた。
(高木場)



T1表土掘削



T1 調査終了



T2表土掘削



T2 調査終了

埴生南遺跡



図9 調査位置
(1:5,000)

調査の概要

埴生南遺跡は、渋江川左岸の標高37m前後の段丘上に立地する。埴生地区は、市内でも特に遺跡の密集しているところとして知られている。昭和50年代に圃場整備が実施され、水田地帯であったが、近年市街地化がすんでいる。

1993(H 5)年個人住宅の建設に伴い実施された調査で、弥生中期の遺物包含が確認されている。今回の調査区は、共同住宅の建設に伴うもので、93年の調

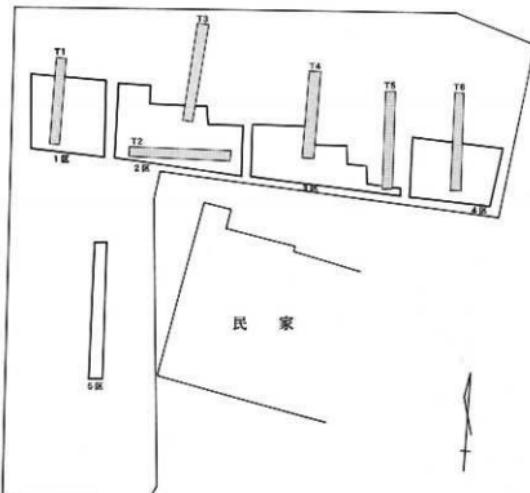


図10 調査区位置図
(1:500)

査区を北と西から囲むように隣接する。当初埴生条里遺跡として調査を実施していたが、調査の結果、埴生南遺跡の範囲を広げることになったものである。

現地調査は2004(H16)年9月3日から10月7日まで実施した。調査対象地に1m×10mの試掘トレンチ4本(T2・T3・T5・T6)、1m×8mのトレンチ2本(T1・T4)を設定した。表土を除去した段階で、T2で表土(旧耕作土)下に多量の土器を含む黒色シルト層(遺物包含層)を確認した。T1・T3・T4・T6においても各トレンチ南側で包含層が確認されたため、調査範囲を面的に広げ、西から1区、2区、3区、4区とした。民家西側の調査対象区でも包含層が広がっていると考えられたが、1.5m以上の盛土造成がされており、面的に広げることは困難であり、1.2m×26mのトレンチを入れ5区とした。掘削機により表土を除去した後、人力により精査し、遺構・遺物の確認をした。包含層は、細かな遺物(玉類など)の出土が予想されたので、土のう袋に詰めて持ち帰り、土壤洗浄することとした。

層位 基本層位はI表土(旧耕作土または盛土)、II圃場整備による搅乱土、III暗褐色シルト(古墳時代遺物含む)、IV灰黄褐色砂質ローム、V黒色シルト(弥生中期遺物包含層)、VIにぶい黄褐色シルトまたは黒褐色シルト、VII灰黄褐色シルト、VIII褐色砂質土である。1区から4区では、表土下すぐあるいは薄い搅乱土の下にV層が広がる。III層は5区以外では確認できない。

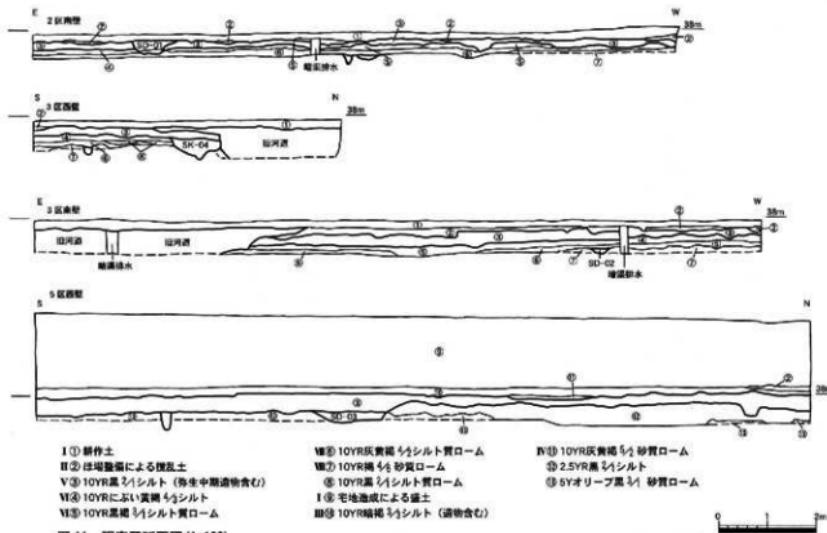


図11 調査区断面図(1:100)

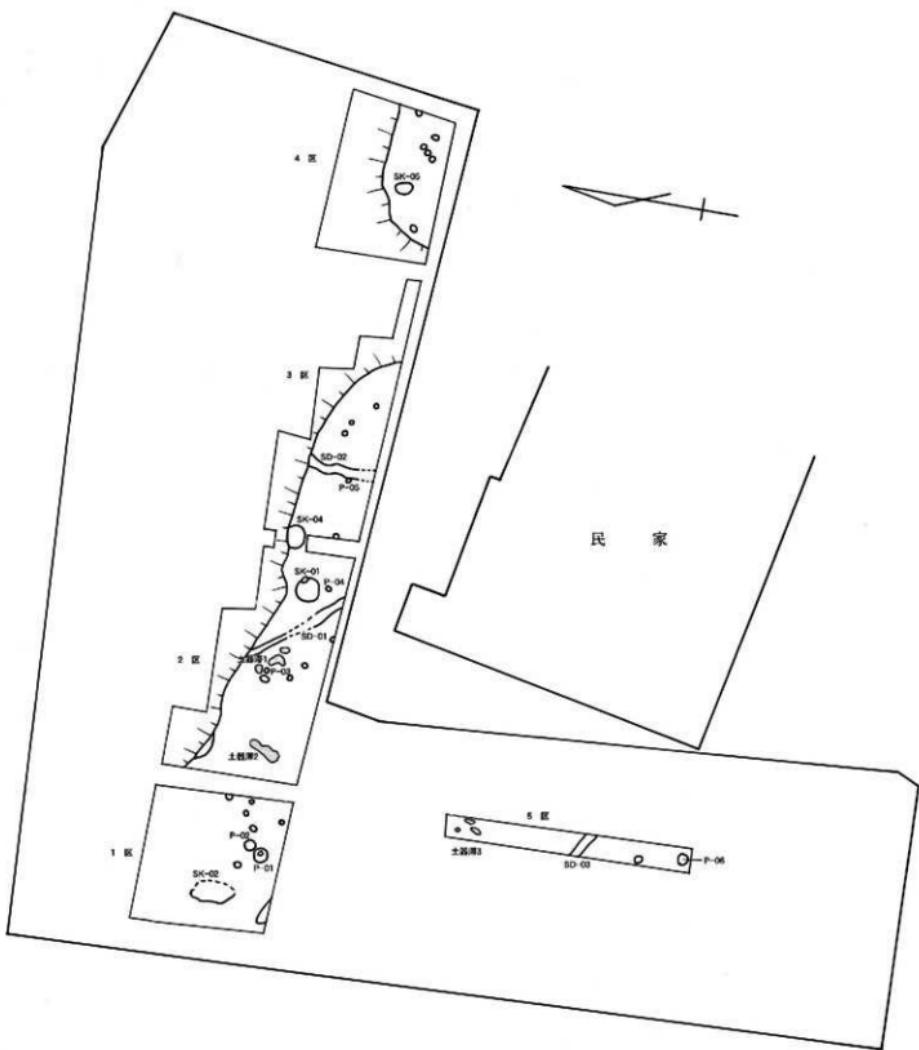


図 12 造構概略図(1:250)

遺構 確認した遺構は溝3本(SD-01・02・03)、土坑4基(SK-01・02・04・05)、穴(P-01~06ほか)である。

SD-01は表土を除去した段階で確認できる。遺物の出土はないので時期は確定できないが、V層(弥生中期の遺物を含む包含層)を切り込んでいる。SD-02・03はともに遺物の出土ではなく、時期は不明である。

SK-01は直径1.4m、深さ0.2mの円形。弥生土器(壺)が1個体分出土した。

SK-02は長径2.3m、深さ0.4m。不定形な楕円形をしており、全体から弥生土器片が多数出土した。

SK-04は直径1.2m、深さ0.5mの円形。弥生土器片、管玉未製品が出土した。

SK-05は長径1m、短径0.8m、深さ0.1mの楕円形。土器小片、石、木片等が出土した。

P-01は直径0.8m、深さ0.1mの円形。弥生土器(壺)が出土した。

P-02は直径0.8mさ0.25mの円形。少量の土器片が出土している。

P-03~06は直径0.3m~0.5mの円形。少量の土器片が出土している。

1区から4区の北側では、毘沙門川の旧河道を確認した。河川改修等により埋め立てたらしくこの中に須恵器、珠洲が混入している。3区と4区の間でも毘沙門川にはほぼ直行する旧河道を確認した。

遺物 出土した遺物は弥生土器が最も多い。そのほかに土製品、石製品、土師器、須恵器、珠洲がある。

弥生土器(写真1~10、22~50) 壺、甕、鉢などがある。ほとんどが包含層からの出土であるが、4、27、34、46はSK-02から、33、38はSK-04から、31はSK-05から、25はP-02から出土した。1、2、5は土器溜2から、3、8、10は土器溜3から出土した。6、7は同一固体である。46はやや盛り上がった突起状の模様、44、48、49は穿孔、50は軽圧痕がある。

土製品(写真51~55) 51は紡錘車、直径3.5cm。甕などの体部を転用したものである。52は土玉、直径1.5cm。SK-04から出土した。54は銅鋸形土製品、高さ4cm、幅3.5cmの破片が2点出土している。同一固体ではない可能性もあるが、鋸と呼ばれる張り出しと、双口と呼ばれる穴が表現されている。55は陶壇に似た土製品、高さ6.5cm、幅4cmの卵形を呈する。側面に指孔に似た穴の痕跡がみられる。

石製品(写真11~21) 11、12は扁平片刃石斧である。13は打製石鏃、14は磨製石鏃である。ともに土器溜2から出土した。15は石錐(瑪瑙)と思われる。土器溜2からの出土である。17は管玉未成品(緑色凝灰岩)である。SK-04からの出土である。16は緑色凝灰岩、18、19は鉄石英、20はひすいである。このは

かにも緑色凝灰岩、鉄石英、瑪瑙などが出土している。

土師器 高坏(脚部)や、小型壺などがⅢ層から出土している。

須恵器、珠洲 旧耕作土からの出土のほか、旧河道を埋め立てた埋土の中から比較的多く出土している。摩滅しており、別の場所から埋土とともに搬入されたものであろう。

以上の出土品から、弥生時代中期にこの地域で農耕やそれにともなう祭祀が行われていた可能性があること、また、玉作りが行われていたことなどがうかがわれる。

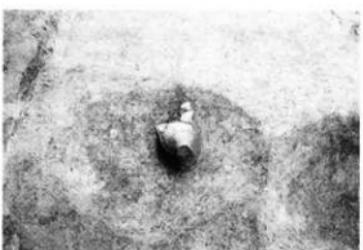
(高木場)



SK-01 出土状況



SK-02 出土状況



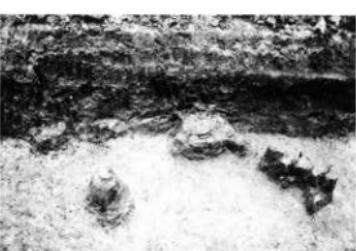
P-01 出土状況



土器溜 1



土器溜 2



土器溜 3



1



2

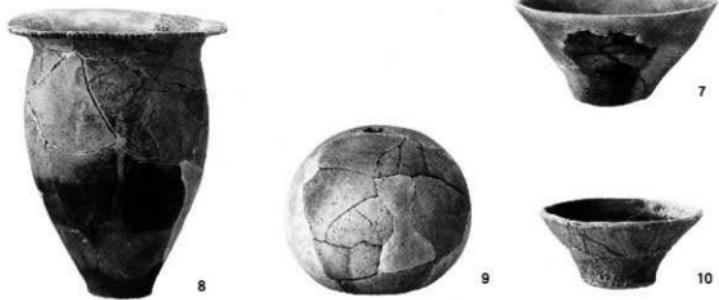


3

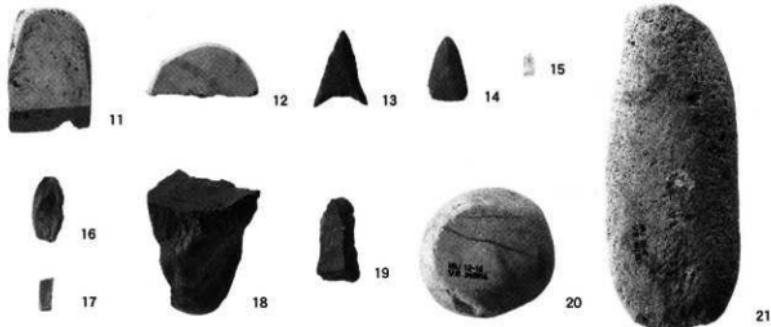


4

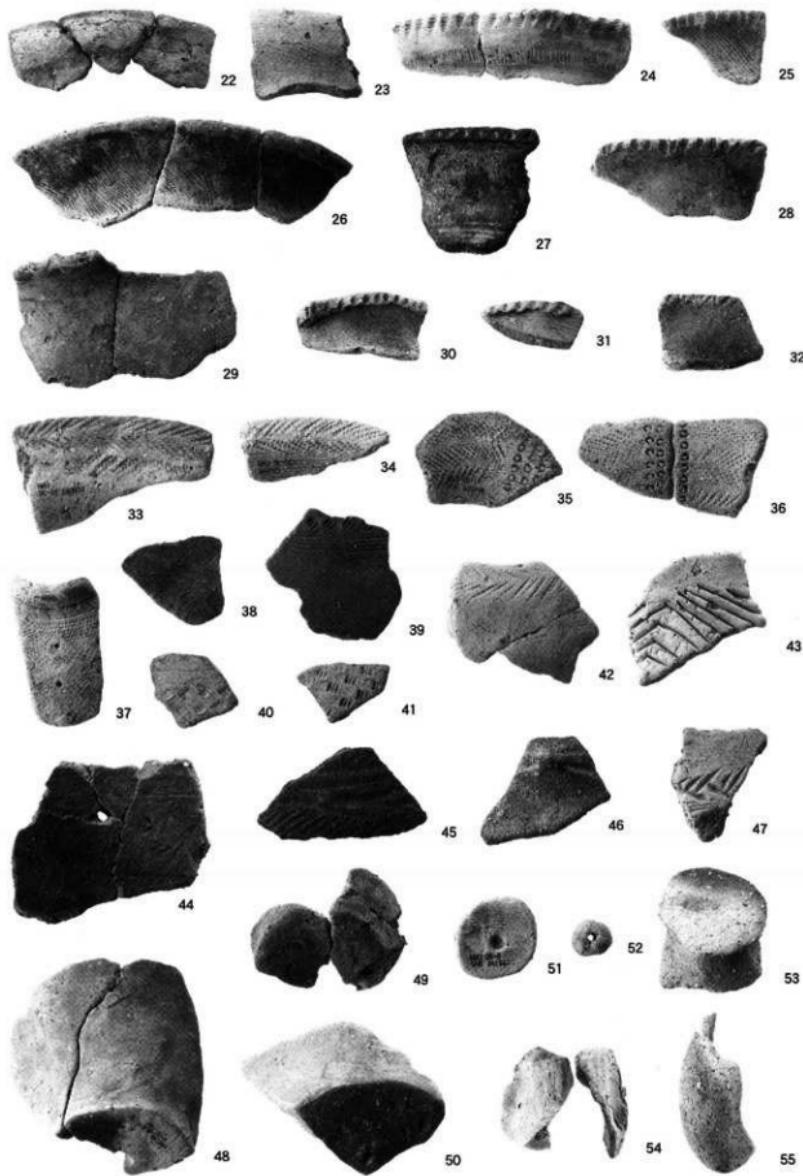
出土遺物(土器) 1/4



出土遺物 土器 1/4



出土遺物 石製品 1/2



出土遺物 土器・土製品 1/4

戸久遺跡

図13 調査位置
(1:5,000)



調査の概要

戸久遺跡は、弥生終末期～中世の遺跡として知られている。本来は、市南部を限る蟹谷丘陵裾部から平野にかけて広がっていたものと思われるが、現在一帯は圃場整備が実施されており、丘陵山麓から平野部に向かって階段状の水田地帯となっている。遺跡が立地するあたりの現在の標高は45m前後をはかり、すぐ北側を国道359号が通っている。調査は、個人住宅の建設に伴うものであり、遺跡範囲の北東端に位置する。また、この地域は、中世の条里地割が残るとされる蟹谷条里遺跡の範囲でもある。

現地調査は、2004(平成16)10月19日から27日まで実施した。調査対象地内に1m×8mの試掘トレンチを4本(T1～T4)東西方向に設定し、人力で掘削した。層位ごとに掘削、精査を繰り返し、遺構及び遺物の有無を確認した。最終的な掘削深度は80mである。

いずれのトレンチも現耕作土の下は圃場整備による擾乱上層が堆積し、その下層はT1・T3では砂礫層が、T2・T4では粘質土層が堆積する。

基本層位はT1・T3

ではI耕作土、II圃場整

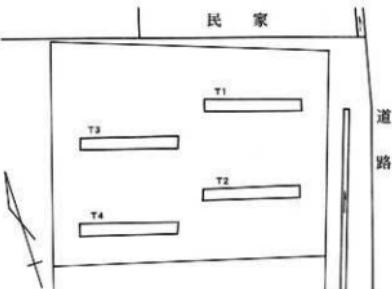
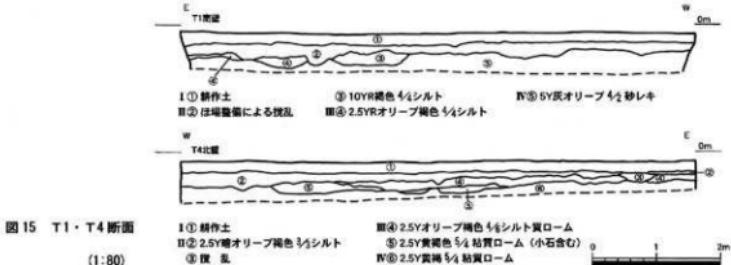


図14 トレンチ位置(1:400)



備による擾乱土層、IIIオリーブ褐色シルト、IV灰オリーブ砂砾である。T 2・T 4ではI耕作土、II暗オリーブ褐色シルト、IIIオリーブ褐色シルト質ローム、IV黄褐色粘質ロームである。

遺構及び遺物は確認できなかった。

(高木場)



調査対象地



調査状況



調査状況



調査終了

桜町遺跡（2）



図 16 調査位置

(1:5,000)

調査の概要

桜町遺跡は、小矢部市街地の北方、子撫川の右岸に位置し、標高25mあまりの段丘上から丘陵裾部にかけて広がる。1980(S 55)年から国道8号小矢部バイパス建設に伴う調査をはじめとし、50件近い調査が実施されている。その結果、縄文時代から江戸時代に至るまでの長期間にわたり営まれた遺跡であることが確認されている。今回の調査区は、店舗建設及び駐車場造成に伴うもので、遺跡の北部中央にあたる。西側の隣接地では1993(H 5)年の調査により、奈良時代の道路跡が確認されている。また、北側は国道8号小矢部バイパスが通っており、建設に先立つ調査では奈良時代の掘立柱建物が確認されている。

現地調査は2004年(H16)11月9日～12月6日まで実施した。調査対象地内に1m×8mの試掘トレンチを東西方方向に10本設定した。掘削機で耕作土等を除

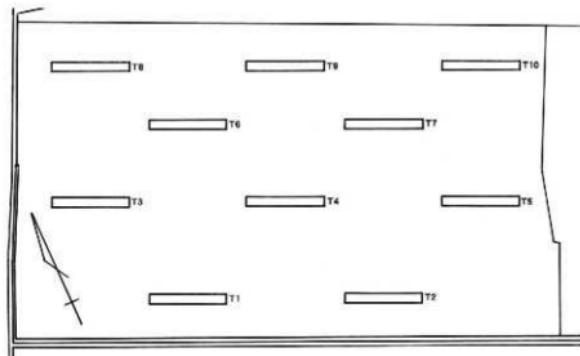


図 17 トレンチ位置

(1:500)

去した後、人力により層位ごとに掘削、精査を繰り返し、遺構及び遺物の有無を確認した。最終的な掘削深度は0.5m～0.7m、下層を確認するための深掘部分で1.2mである。

基本層位は、I 耕作土、II 暗オリーブ褐色粘質土、III 黄褐色粘質土、IV 黄灰色(4/1)粘土(やや砂質)、V 黒色粘土である。T 3～T 5ではIII層とIV層の間に黄灰色(5/1)粘土(やや砂質)が堆積し、T 4ではこの層から炭化物がかたまって検出され、遺物も確認できた。

遺構は、T 5で穴1基を確認した。直径20cm、深さ16cm。遺物の出土はない。

遺物は、II層から中世～近世にいたる遺物が出土し、III層と灰褐色粘土(5/1)からは少量の土師器が出土したが、小片のため時期の特定にはいたらない。

(高木場)

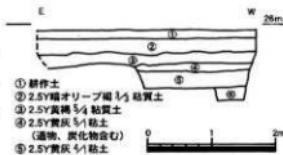


図18 T 4断面(1:80)



調査対象地



表土除去



T 5穴



T 4南壁

日の宮・道林寺遺跡

図 19 調査位置
(1:5,000)

調査の概要



道林寺遺跡は浪江川左岸の段丘上に位置する。1974(S49)年から1976(S51)年にかけて圃場整備事業に伴う調査が行われ、縄文時代から古墳、奈良、平安、中世を中心とする遺跡であることが知られている。当初は蓮沼城跡、日の宮遺跡、蓮沼遺跡、長高塚古墳古墳群、樋掛遺跡、道林寺Ⅰ遺跡、道林寺Ⅲ遺跡道林寺Ⅳ遺跡と呼ばれていた7遺跡を、1985(S60)年小矢部市遺跡地図台帳を整備した際に、まとめて日の宮・道林寺遺跡としたものである。調査は、公民館の建替に伴うもで、遺跡の中央西よりにあたる。

現地調査は、2004(H16)年12月6日に実施した。現在も公民館のグランドとして使用されていることから、敷地北東の一隅に1m×4mの試掘トレンチを設定し、層位を確認することにした。重機により現地表下1.5mまで掘削し、堆積する土層すべてが後世(圃場整備時あるいはその後)の盛土であることを確認した。
(高木場)



調査対象地



トレンチ断面

報告書抄録

ふりがな	へいせいじゅうろくねんどおやべしまいどうぶんかざいはくつちょうさかいほう						
書名	平成16年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ名・番号	小矢部市埋蔵文化財調査報告書第56冊						
編著者名	大野 洋也 高木場 万里						
編集機関	小矢部市教育委員会						
所在地	〒932-8611 富山県小矢部市本町1番1号 TEL 0766-67-1760						
発行年月日	西暦2005年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
高木山遺跡	小矢部市浅地浮土寺 116-1ほか	16209 151	36° 37' 23"	136° 52' 47"	20040426 ~ 20040430	3,000 m ²	特別養護老人ホーム建築
福樂山牧場B遺跡	小矢部市田川字福樂山 162-4ほか	16209 009	36° 42' 20"	136° 52' 22"	20040507 ~ 20040512	341.94 m ²	風力発電設備建設
桜町遺跡(1)	小矢部市桜町字産山 1312-2ほか	16209 021	36° 41' 02"	136° 52' 40"	20040607 ~ 20040610	693 m ²	宅地造成
埴生南遺跡	小矢部市埴生280-1 ほか	16209 055	36° 39' 37"	136° 51' 28"	20040903 ~ 20041007	1,433 m ²	アパート建設
戸久遺跡	小矢部市安養寺1747-1	16209 140	36° 37' 46"	136° 52' 20"	20041019 ~ 20041026	400 m ²	個人住宅建設
桜町遺跡(2)	小矢部市桜町字産田 1401ほか	16209 021	36° 41' 07"	136° 52' 43"	20041109 ~ 20041206	1,669 m ²	店舗駐車場造成
日の宮・道林寺 遺跡	小矢部市道林寺139	16209 057	36° 38' 47"	136° 51' 12"	20041206	630 m ²	自治公民館建設
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
高木山遺跡	散布地	縄文	溝、穴	縄文土器、磨製石斧、石器	引き続き、一部本調査		
福樂山牧場B遺跡			なし	なし			
桜町遺跡			なし	なし			
埴生南遺跡	集落	弥生・古墳	溝、土坑、穴	弥生土器、銅鏡形土製品ほか 土製品、管玉未製品ほか石製品、土師器			
戸久遺跡			なし	なし			
桜町遺跡	集落	奈良か?	穴	土師器			
日の宮・道林寺 遺跡			なし	なし			

小矢部市埋蔵文化財調査報告書第 56 冊

平成 16 年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

発 行 日 2005 年 3 月 31 日

編集・発行 小矢部市教育委員会

〒932-8611 小矢部市本町 1 番 1 号

TEL 0766-67-1760

印 刷 ヤマシナ印刷㈱

